

## 片手で

## 缶開け

## 丸い野菜切り



電子レンジの天板にゴム製のキャップオープナーを取り付け、片手で缶詰が開けられる仕様にした庵原菜摘さん



片手で丸い野菜を切ることができる「丸野菜切り切りの助」を制作した植田大貴さん

高齢者や障害のある人など特別な支援が必要な人たちの日常生活を助けようと、静岡文化芸術大学の学生でつくる「自助具デザインプロジェクト（JDP）」が活動を続けている。「デザイン美を追求した道具を提案し、使う方の日常や心が豊かになるように」。学生たちの発想と願いが込められている。（久下聡美）



在学生や卒業生がこれまで制作した作品の中から26点が会場に並び、いずれも浜松市中央区中央の静岡文化芸術大で

### 文化芸大で作品公開 きょうまで

# 自助具

06年から続くプロジェクト

自助具は、「日頃の生活に不自在さを感じる人たちが助けられる目的で作られた道具。同プロジェクトは、二〇〇六年に始まり、地元の高齢福祉施設などで聞き取り調査を行い、日常生活で使う道具のデザインと制作を続けてきた。

デザイン学部三年の庵原菜摘さん（左）は、電子レンジの天板にゴム製のキャップオープナーを磁石で取り付け、片手で缶詰を簡単に開けられる道具を制作。

「既製品に自分たちのアイデアを加えたりして、より使いやすいものを考えました」と振り返った。

浜松市中央区の同大学中央ホールでは、卒業生や在学生が制作した二十六点が、十九日まで公開されている。植田さんは「さまざまな状況の方の暮らしを考えて作ってきました。こうしたアイデアが広がる社会になってほしい」と願っている。

タワーで試作を重ね、滑り止めをついたコップ型のまな板と、丸い形状の包丁を開発した。「大量生産の商品では、使用に不便を感じる方もいる。少しでも生活の助けになるデザインを提案できれば」と話す。

2019.4.19

中日新聞 P.17 (朝刊)